

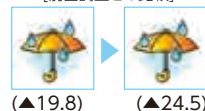
秋田県商工会地域景況判断ボード

平成26年4月～6月期

【全体】改善傾向から一転、4期ぶりの悪化に転じる

業況DI値は、前期調査より好転が2.2% (11.5%→9.3%)減少、悪化が2.5% (31.3%→33.8%)増加したことから4.7ポイント低下の▲24.5ポイントとなり、平成25年1-3月期以来、4期ぶりに悪化した。業種別に見ると製造業・建設業が大幅に悪化しており、消費税率引き上げによる駆け込み需要の反動や原材料価格の上昇を問題として挙げる企業が多く見受けられた。

[前回調査との比較]



【北部】



○業況DI値は前期調査より11.6ポイント低下した。また、採算DI値も低下しており、原材料価格の上昇による影響が北部地域で顕著であった。
○来期業況の見通しは、製造業、小売業が好転となり、建設業、サービス業は概ね横ばいとなる見込みである。

【中央部】



○業況DI値を含め各調査項目が概ね横ばいにより推移する中、資金繰りDI値は6.5ポイント上昇した。
○来期業況の見通しは、製造業、サービス業が好転となり、建設業、小売業は悪化する見込みである。

【南部】



○採算DI値を除く各調査項目が横ばいまたは上昇となっており、特に売上DI値は12.2ポイント上昇した。
○来期業況の見通しは、製造業、小売業、サービス業は好転となり、建設業は概ね横ばいとなる見込みである。

【製造業】



■今期の業況

業況DI値は前期調査より14.6ポイント低下した。原材料価格の上昇を経営上の問題点としており、資金繰りを除いて他調査項目も低下となった。

■来期見通し(3ヵ月ごとの比較)

業況DI値は今期と比べ10.9ポイント上昇しており、好転する見通しとなっている。

■設備投資

今期実施件数は8件あり、調査対象製造業の13.1%が設備投資を行なった。来期計画件数は5件となっている。



【建設業】



■今期の業況

業況DI値は前期調査より18.9ポイント低下し、大幅に悪化した。消費税率の引き上げによる駆け込み需要の反動で受注減となったことにより、平成25年7-9月以来の低水準となった。

■来期見通し(3ヵ月ごとの比較)

業況DI値は今期と比べ4.1ポイント低下しており、小幅ながら悪化する見通しとなっている。

■設備投資

今期実施件数は12件あり、調査対象建設業の25%が設備投資を行なった。来期計画件数は4件となっている。



【小売業】



■今期の業況

業況DI値は前期調査より3.1ポイント上昇の概ね横ばいとなり、低水準が続いている。

■来期見通し(3ヵ月ごとの比較)

業況DI値は今期と比べ1.8ポイント上昇しており、概ね横ばいとなる見通しである。

■設備投資

今期実施件数は9件あり、調査対象小売業の11.4%が設備投資を行なった。来期計画件数は8件となっている。



【サービス業】



■今期の業況

業況DI値は前期調査より2.3ポイント上昇の概ね横ばいとなった。季節的な影響もあり、売上DI値は20ポイント以上、資金繰りDI値は10ポイント以上と、他調査項目においても上昇した。

■来期見通し(3ヵ月ごとの比較)

業況DI値は今期と比べ5.8ポイント上昇しており、好転する見通しとなっている。

■設備投資

今期実施件数は9件あり、調査対象サービス業の8.7%が設備投資を行なった。来期計画件数は8件となっている。



北部トピックス

- 大館北秋
商工会と大館商工会議所が市へ要望していた従業員資格取得費を補助する方針が固まった。国家資格や国家検定の取得を要した経費の2分の1、上限10万円を補助するものである。
- 三種町
ワタナベデンキの子会社として設立された(株)極光が、三種町森岳の農地を利用しメガソーラー発電基地「ソーラーガーデンみたね太陽光発電所」を建設している。東北初となる秋田杉を使用した木製架台に太陽光パネルを設置する予定である。

中央部トピックス

- 男鹿市
福米沢地区で地下深くの岩盤に含まれる新型石油「シェールオイル」試掘作業が行われた。水圧で岩盤に割れ目を作ってガス・油等を採取する手法は国内初であり、11月頃本格的に試掘が開始される予定である。
- 由利本荘市
市が「企業支援貸工場」として旧TDK由利本荘(株)本荘工場を整備した。操業を希望する事業者を対象として雇用の創出を図ることを目的としており、現在は全5棟中3棟が入居済みである。

南部トピックス

- よこて市
増田地区で商店街の賑わい創出のため「空き店舗有効活用対策事業」を展開している。現在は2店舗が出店しているほか、6月1日からは「チャレンジショップ」を開店し、15業者及び団体が出店している。
- ゆざわ小町
商工会女性部による「おもてなし吟行プラン」が6月7日・8日の両日に開催された。32名の参加者は、小野小町ゆかりの地を巡ったほか、川連漆器蒔絵、稲庭うどん等の地場産業を体験した。

【天気図】 前年同期比のDI値をもとに作成



※「DI 値」とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で各調査項目についての増加企業割合と、減少企業割合の差を示す。

【調査要領】

1. 調査対象 (1)対象地区:全21 商工会地区 (2)対象企業数:294 企業 (3)回答企業数:294 企業 (回収率:100%)
2. 調査対象時期 平成26年4月～6月期を対象とし、調査時点は平成26年6月1日とした。
3. 調査方法 (1)商工会の経営指導員による訪問面接調査 (2)調査対象企業の抽出は「中小企業景況調査実施要領およびマニュアル」による。

4. 調査対象企業数内訳

業 種	対象企業数			
	北 部	中 央 部	南 部	合 計
製 造 業	21	18	23	62
建 設 業	19	13	17	49
小 売 業	25	28	26	79
サ ー ビ ス 業	41	31	32	104
合 計	106	90	98	294

5. その他

- (1)前年同期とは平成25年4月～6月期、前期とは平成26年1月～3月期、来期とは平成26年7月～9月期のことをいう。
- (2)本報告で主に使用する調査項目は、業況・売上・採算・資金繰り、設備投資の状況である。